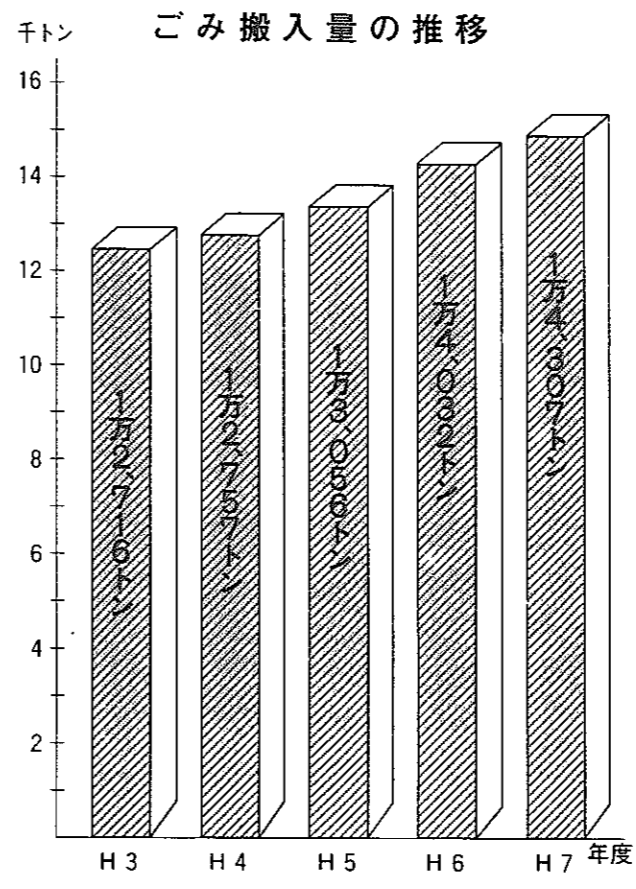


# ごみを資源に 一人ひとりの心掛けから

新しい品物を買う。品物を手に取るまでに、一体幾つもの紙、ビニールを捨てていますか。私たちの周りに物があふれている現代。それにつれて、ごみもまた、確実に増えています。要らなくなった物はすぐにごみ箱へ。ちょっと待って、そのごみは資源になるかもしれない。考えてみましょう。私たちの出すごみのこと。

**ごみの量は1年間で1人当り361キログラムに**  
 空き缶、生ごみ、紙くず、私たちが生活しているかぎり必ず出るごみ。1年間で一体どれくらいになるかと思えます。左のグラフは平成七年度から過去五年間の白根市のごみの量の推移を表したものです。七年度中に家庭から出された



ごみの量は、一万四千三百七十七トン。五年前の平成三年では一万二千七百六十六トンでした(グラフ)。この五年の間に、約一千六百トン(二・五パーセント)ものごみが増えたことになりました。では、市民一人当たりが一年間に出すごみはどのくらいなのでしょう。平成三年度で三百四十二キログラム、平成七年度では三百六十一キログラムと、平成三年度と比べて約十九キログラム増加。一人が一日当たり出すごみの量は約一キログラムという計算になります。

**大丈夫ですか？**  
**あなたのごみの出し方**  
 年々増える一方のごみは、一体どのようにして家庭から出されているのでしょうか。七月六日、国道から東側の白根地区の「燃えるごみ」の日に、収集業者の協力を得て市政モニターの長井孝子さん(南新町)から、実際にごみを収集しな

から、出し方を見て回ってもらいました。右の写真は、そのときに撮ったマナー違反のごみの出し方の一例です。  
 ステーションに出されているごみは、スーパリーの買い物袋に入れてあるものがほとんど。そのほか、手提げ袋や段ボール箱、黒いビニール袋などもかなりあり



▲燃えるごみと一緒に出されている空き缶



▼空き缶が投げ入れられたままになっているステーション



▲ステーションに縛らないで出された雑誌を回収

## 「自分の所さえきれいであれば」という意識は捨てなければ



市政モニター 長井孝子さん(南新町)

私が回ったのは、国道から東側の白根地区の一部のコースです。しかし、それだけでも収集員の方たちの苦労がうかがえました。

回ってみて、まず思ったのはごみステーションの数の多いこと。ほんの数メートルの間隔で点在している所もあります。そういう場所には、ごみは少しづつしか出されていなくて、「ステーションをまとめてもいいのでは」と思う所が何カ所もありました。新しくステーションを設置する場合は、ある程度制限して

も良いのではないのでしょうか。

ごみを実際に収集してみても、ごみ出しのマナーの悪さが目立ちました。特に生ごみは、水切りされていないもの、袋の口を縛っていないもの、袋の口がね。糠床がそのまま捨てられていて、道路に飛び散ったこともあり。その匂いも強烈でしたが、顔にかかっていたらと思うと、嫌な気分になりました。リサイクルできるのに、燃えるごみとして出されていたものもかなりありました。例えば雑誌などですが、古紙類の目に出せばリサイクルできるのに、もったいないですね。しかも縛らずにそのまま出されてしまいました。雑誌などは重さもありありますし、収集も大変です。そのほかに、要らなくなった衣類なども出されてきました。お年寄りの体を拭くときなどに利用できるのではないのでしょうか。

最近では、ごみ問題が社会的に関心を集めています。スーパーやデパートなどでも省力化をうたっていますが、一方で過剰包装をする場合も多くあります。ごみを減らすために、例えば包装する必要のないものは「要らない」と断る勇気が必要ですね。それから、生ごみを出すときはきちんと水切りをするとか、分別をしっかりするとか、基本的なことをやってほしいです。「自分たちの所さえきれいであれば」という意識は捨て、一人ひとりの問題として捉えていかなければいけませんね。

▼収集作業をする長井さん



ました。中身が見える半透明のビニール袋など収集する側に配慮した出し方も見受けられる一方、目立つたのがマナー違反のごみ。水をよく切っていない生ごみ、きちんと分別されていないものなど。中には、燃えないごみの缶やびん、収集できない消火器やタイヤなどが、ステーションに放置されたままになっている所もありました。  
 決められた場所へ決められた時間に出すことはもちろん、きちんと分別して出す必要があります。「私一人くらい」、「どうせ黒い袋に入れば分らないんだから」と考えていませんか。大丈夫ですか？あなたのごみの出し方。

## ごみの減量は一人ひとりの心掛けから

衛生センターでは、ごみを五種類に分けて回収しています。これらの中には、リサイクルに回せる資源もあります。しかし、せっかくりサイクルできるごみも、きちんと分別して出さなければ価値を失ってしまいます。例えば、スチール缶やアルミ缶は、燃えるごみと一緒に出して、一度燃やされると価値がなくなってしまうので、リサイクルで無駄なものを買わない、リサイクルできるものはしていく。ごみを減らすために、そんな一人ひとりの心掛けから始めていくことが必要です。市でも八月にごみ減量化等推進委員会を発足させ、ごみ減量化の対策を検討していく予定です。一人ひとりの取り組みで、確実に減らせるごみ。もう一度考えてみませんか。

- ごみの分け方**
- 燃えるごみ
    - みず類 類他
    - 木く 衣ゴム
    - 所、プラスチック
    - 紙、革、小型プラスチック
    - 台紙、布、革、小型プラスチック
  - 燃えないごみ
    - ガラス、せともの類
    - 鉄 缶
    - リサイクル
  - 古紙類
    - 新聞、雑誌
    - チラシ、ボール紙
    - リサイクル
  - 粗大ごみ
    - 家具、家電、家電、乾電
    - 寝具、製品、品
    - 家寝家、乾電
    - 廃品、の
    - リサイクル
  - 収集処理できないもの
    - 燃料、危険物
    - ガス、ボイラ
    - 薬品、有害物
    - 農機、具